１．活動のテーマ

＜テーマ＞

動き　０歳児　～感覚統合と探索行動の発達～
（把持・口腔探索・振る・両手操作・受け渡し）

＜テーマの設定理由＞

本活動は、柔らかいゴム製の動物人形を用い、0歳児における基礎的な感覚運動の発達を促すことを目的として実施した。具体的には、「握る」「持つ」「口に運ぶ」「振る」といった初期の探索行動を十分に経験することで、手指の発達および感覚（触覚・口腔感覚）の統合を図ることをねらいとした。
また、保育者や他児とのやりとりの中で物を介した関わりを経験し、対人関係の基盤となるコミュニケーションの芽生えを育むことも目的とした。

２．活動スケジュール

年間計画の策定
月間実施（５月～３月）
指導日当日の振り返り
職員会議での振り返り（月１回）
学期・年度末評価　（１年を通して定期開催）

３．探究活動の実践

＜活動の内容＞

畳スペースにおいて、複数の柔らかいゴム製の動物人形を配置し、子どもが自由に手に取れる環境を設定した。安全性の高い素材であることから、口に入れる、握る、叩くなどの多様な関わりを保障した。活動の中では以下のような姿が見られた。
・人形を手に取り、握る・振る
・口に運び、感触や硬さを確かめる
・両手に持ち替える、左右で持つ
・保育者や他児に見せる、渡そうとする
・人形同士をぶつける、落とす
子どもの興味に応じて言葉かけを行いながら、安心して関われる環境を整えた。

子どもたちは、柔らかく弾力のある素材に興味を示し、繰り返し手に取る様子が見られた。特に、握る・口に入れるといった行為を通して素材の感触を確かめる姿が顕著であり、探索活動が主体的に展開されていた。
また、一人の子どもが持っている人形に他児が関心を示し、見つめたり手を伸ばしたりする場面も見られ、物を介した他者への関心の広がりが確認できた。
さらに、保育者の手元にある人形に視線を向けたり、差し出された人形を受け取ったりするなど、簡単なやりとりの芽生えも見られた。
保育者は、子どもの発達段階を踏まえ、過度な介入を避けながらも以下のような関わりを行った。
・「やわらかいね」「キリンさんだね」などの言語化
・子どもの動きを模倣し、安心感を与える
・物の受け渡しを通したやりとりの促進
・口に入れる行為を否定せず、安全面に配慮しながら見守る
また、子ども同士の距離や安全確保にも配慮し、落ち着いて遊びに集中できる環境を整えた。

4．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

本活動により、0歳児における基本的な感覚運動（握る・口に入れる・振る）が十分に引き出され、探索活動の充実が見られた。柔らかいゴム素材は、安心して繰り返し関わることができるため、主体的な遊びの継続につながったと評価できる。
また、物を介したやりとりの場面が見られたことから、対人関係の基盤形成にも寄与していると考えられる。
今後は、形状や大きさ、重さの異なる素材を取り入れることで、より多様な感覚刺激を提供し、探索活動の幅を広げていく。また、音の出る玩具や転がる素材を組み合わせることで、動きと感覚の結びつきを強化していく。
さらに、保育者とのやりとりだけでなく、子ども同士の関わりが自然に生まれるような環境構成を工夫し、社会性の発達にもつなげていきたい。